

# 西日本正教

No.130  
Summer, 2011

西日本主教教区宗務局

604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283  
京都ハリストス正教会内  
電話・FAX (075)231-2453 Email: ocj\_kyoto@yahoo.co.jp  
郵便振替 01030-5-18547



# 東日本大震災

# 被害と復興支援の報告

ゲオルギイ松島雄一

三月十一日、十四時四十六分、東北地方・

関東地方を文字通り「未曾有」の大地震が襲い、その後一般の予想をはるかに超える規模の大津波が三陸海岸を含め北関東までの太平洋沿岸を襲いました。死者行方不明者は二万人を超え、沿岸の多くの市町村が壊滅的な被害をこうむりました。日本正教会の東日本主教教区、また東京大主教教区では多くの教会が被災しました。当初、情報手段の途絶、交通網の寸断によって信徒の安否確認が終わるまでに三週間もの時間がかかりましたが、現在では管轄神父、信徒の方々の懸命の調査によって被害状況がほぼ判明いたしました。



左から盛教会伊勢執事長、山田教会白土執事長、石巻教会佐々木執事長

## 被害状況

死者は十一名（家庭内未授洗者二名を含む）、家屋・店舗の全壊は三十三戸、半壊・浸水は五十戸近くにのぼっています。会堂・聖堂も甚大な被害を受けました。山田教会は津波後の町全体をなめ尽くした火災で焼失、佐沼教会は建物が傾き、市から危険建造物に指定され、解体は余儀なしとされます。金成教会では余震の被害も重なり、大幅な修理が必要となりましたが、五月中旬修理工事を着工し七月二五日に工事を終えました。石巻教会は幸いにも倒壊・流出は免れましたが、津波により聖所が浸水し、仙台から信徒のボランティアもかけつけ、がれきの片付けや洗浄など復旧に当たりました。その他、盛、十文字、盛岡、岩谷堂、清水水、上下堤、白河、函館教会から被害が報告されています。また東京大主教教区内、北関東の坪（あくつ）、馬頭の両会堂にもかなりの被害があります。東京復活大聖堂教会でも主教館、教団事務棟、聖堂にひび割れなどの被害が生じました。

## 義援活動

このような被害に対し、教団ではいち早く国内外にむけて被災地の正教会・信徒のための義援金を呼びかけました。その

結果、七月九日の全国公会での報告によれば総額

一億六九五八万円に達しています（現在も継続募集中）。内訳は国内の信徒からは三九八二万円、海外からは温かい励ましのメッセージと共に、ロシア正教会モスクワ総主教庁、国際正教慈善協会（I.O.C.C.）、在外ロシア正教会、香港正教会、アメリカ正教会（O.C.A.）西部教区、聖エリザベタ婦人会等からの一億二九七五万円です。その内、ロシア正教会モスクワ総主教庁からは一億一四五八万余円もの金額が寄せられました。

このモスクワ総主教庁からの義援金について全国公会席上ダニール府主教座下は「この金額はすべて、現今のたいへん複雑な日露外交関係の中で、キリール総主教聖下の『日出ざる国の全ての信徒』のため





修復工事の完了した金成正教会聖使徒イオアン聖堂



修復工事中の盛岡正教会十字架挙栄聖堂

の愛の献金の呼びかけに応えて、全ロシア津々浦々の草の根の信徒たちが寄せてくれたものである」ことを特に言及されました。

被害状況が判明するにつれて、ただちに義援金の支給も始まりました。永眠者への弔慰金・被災者への見舞金として、東日本主教区ではすでに二六五万円（七六件）が贈られ、教会で被災を把握している全ての信徒に弔慰金・見舞金のお渡しを完了しています。このほかにも被害を受けた建物の修理の見積もりも集計されつつあり、現在のところ見舞金などの生活援助も含め総額で一億数千万円が必要となる見込みです。

### 被災地からの声

被災地を何度も訪問し管轄下の被災信徒の

声を直接聞いているマルコ小池神父は全国公会の席上、「この苦境の中で、経済的な被害もさることながら、たましいが壊れてゆく人が幾人もいる。たましいの救いこそが、教会の第一の大切な仕事であることをあらためて皆さんと確かめ合いたい。またぜひ東北へ観光に来てください。東北の産物を買ってください」と述べ、また被災教会からは山田教会、盛教会、石巻教会の各執事長が立ち、全国の信徒への厚い感謝を述べるとともに、「宗務総局としていち早く被災地を訪問視察し、被災信徒たちがどのような状況に立たされているのか、直に知って欲しい」と訴えました。

また精力的に被災地を巡回し、親しく信徒を励まされているセラフイム主教座下は「教会が地の塩、世の光であることを今こそ示さ



なければならぬ」と呼びかけられ、五月一日には盛教会「主の昇天聖堂」に会堂を失った山田教会信徒を始め被災地の信徒が集まり、「歴史的」な復活大祭を力強く盛大に祝うことができ、神の大きな励ましを分かち合えた喜びをご紹介されました。なお記念写真でそれぞれに手に持つのは、一日も早い原発事故とその後遺症が終熄することへの祈りを表す、放射性物質を吸収するというひまわりです。



# 西日本主教教区 教区会議

6月19日 (大阪) 報告司祭パウエル及川信

六月一九日(日)ダニイル府主教座下ご臨席のもと、西日本主教教区「教区会議」が大阪ハリストス正教会、生神女庇護聖堂・信徒会館を会場に開催されました。

野誦経者(京都)。大阪正教会の信徒が中心となって聖歌を歌いました。

一億六千万もの多額の義援金が寄せられたことを語られ、各教会から参集した信徒理事・代議員一同に御礼の言葉を述べると共に、被災地の復旧・復興への道のりはまだまだ長い、西日本はじめ全国の聖職者・信徒が一体となって、被災教会・信徒等を後援していこうとダニイル座下は熱く語りかけられました。

## 司祭会議・教区理事会(一七日・一八日)

教区会議開催に向けて、一七日(金)午後二時～七時まで、ダニイル府主教座下の祝福を得て、司祭会議を大阪正教会信徒会館において開催。過年度の報告・反省、新年度の教区活動の計画案策定等の討議を行いました。

一九日(日)主日聖体礼儀、府主教座下ご司務のもと、グリゴリー小川公長司祭、パウエル及川司祭、イサイヤ酒井司祭、イオン小野司祭、ダヴィド水口司祭、ゲオルギイ松島司祭が陪祷。説教は酒井師。

十字架接吻時に府主教座下は、古いスラブ語の福音書を大阪教会に贈呈されました。

一八日(土)、午後一時から会計監査、一時半～理事会。理事会では、ダニイル府主教座下の言葉、過年度と新年度の業務報告・計画(及川)、全国宣教企画委員会(水口師)、全国献金委員会(小川師)、東日本大震災被災教会復興計画(小野師)、一〇月に開催された亜使徒聖ニコライ列聖四〇年・聖自治四〇年記念祭(水口師)、来春二月聖ニコライ永眠百年祭(小野師)の報告、佐藤財務部長から決算報告・予算案の説明があり、すべて原案どおり本会議にかける事が決議されました。

午後一時半から本会議。議長ダニイル座下のもと副議長に松島師、佐藤孝雄兄、書記に水口師、松田輔祭が選任され、議事が進行されました。

理事会から上程された過年度と新年度の業務報告・計画、全国宣教企画委・献金委、東日本大震災被災教会復興計画、来春二月の聖ニコライ永眠百年祭、一〇月に開催された記念祭の報告。また財務部長から決算報告・予算案の説明、宣教に関する熱心な討議のあと、すべて原案どおり承認されました。また神戸教会が新たに隣接地と住宅を取得したことが報告されました。

晩祷は午後五時から大阪生神女庇護聖堂において及川司祭と松田光剛輔祭により執り行われました。

前日の理事会と教区会議の中では、ダニイル府主教座下が特に、東日本大震災発生時からの経過と義援金について詳細に話されました。西日本はじめ海外からも現時点で、総額約

府主教座下の随行は松浦清博長輔祭、高橋副輔祭、田畑神学生。誦経は尾又副輔祭(神戸)と小

た。



## 新年度教区活動と懇親会

本年も教区では活発な活動を展開する計画です。

来春二月東京で開催される亜使徒聖ニコライ永眠百年祭と行事が重ならないように、前倒しで秋季セミナーを、一〇月一〇日(月・祝)大阪正教会で開催、講師に長縄光男先生(横浜国大名誉教授)を予定。神品講師は及川。亜使徒聖ニコライ渡来一五〇年を記念し、聖ニコライの宣教・牧会を支えた人々についての講演を予定しています。

教区学びの会は、京都・東海地区・福岡で開催予定、日時・テーマは後日。

出版物では、西日本正教は八月末、『正教要理』を秋に刊行の予定です。

また東京復活大聖堂では、西日本が発行したカラー啓蒙誌『亜使徒聖ニコライの歩み』が好評で、すでに改訂三版、七千冊が刊行されています。さらにこの冊子のロシア語版が六月に刊行され、また英語版も準備が進んでいます。西日本の皆様の努力がこうした形で豊かに実り、宣教の輪を広げていることを喜び、なおいつそこの宣教活動の活性化をめざしましょう。

その一方でこうしたさまざまな活動を支える宣教献金が不足しており、教区としては、広く宣教献金を募集(十一月)することになりました。皆様には御理解・御協力のほど心よりお願い申し上げます。

教区役員(任期三年)・会計監査(任期一年、各役員名は別途記載)、七月の全国公会神品・信徒代議員が選任され、夕四時頃会議終了。

記念写真後、信徒会館での夕食懇談・慰労会がなごやかに行われました。大阪婦人会の皆様への心のこもった食事を堪能、広大な西日本各地から参集した信徒の談笑のうちに、会議の全日程を無事終了。

皆様、ありがとうございました。

## 教区新役員紹介 御協力へのお願い

わたしたちは主なる神の導きに従い、その御心にかなうような教区の運営に専念すべく、謙虚・誠実に一体となつて、牧会・宣教に取り組んでいこうと決意を新たにしています。

しっかりと未来を見すえ、夢と理想、そこへ到る具体的な手だてを構想・創育しつつ、皆様といっしょに一歩一歩あゆんでまいりますので、どうぞよろしく御願ひ申し上げます。

六月一九日(日)教区会議に於いて、ダニイル府主教座下に祝福され、就任した教区役員(任期三年)、会計監事(任期一年)は次の通りです(敬称略)。

|      |                  |
|------|------------------|
| 宗務局長 | 司祭パウエル及川信(京都・九州) |
| 庶務部長 | 司祭ダヴィド水口優明(大阪)   |
| 教務部長 | 司祭ゲオルギイ松島雄一(名古屋) |
| 財務部長 | ミハイル 佐藤孝雄(京都)    |
| 会計監事 | アルセニイ 三井治郎(豊橋)   |
| 同    | ダニイル 菅野重義(大阪)    |



# 全国公会

7月9・10日 (東京)

報告司祭イオアン 小野貞治

去る七月九・十日(土・日)、ダニイル府主教座下、セラフイム主教座下臨席の下、日本ハリストス正教会教団「通常全国公会」が東京復活大聖堂を主会場として開催されました。

## 府主教座下開会訓示

ダニイル府主教座下は、ロシアの修道院発行書籍から引用・翻訳された資料「エッセイ 死を憶う」を配布の上、開会訓示を示されました。

「東日本大震災では、多くの方が生命を失った。共に『死』について考え、永眠された方々の霊の永遠の安息を祈りたい。……創世記冒頭に流れる死の概念には二重性がある。食べると死ぬとされた知識の木の実を食べても人は直ぐに死ななかつたが、神が創造された生命にここで『死』は入った。

ハリストスの復活によって死は滅ぼされ、死は全ての終りではなくなった。信者は領聖によって『不死の泉』を迎え入れ、太初に与えられた神の生命を取り戻す。日没は人に自らの無力さを痛感させるが、日は必ず昇る。……教会は祈る場。生ける人、死せる人、全ての人々のために永遠に祈り続ける(以上、大意)。

## 「亜使徒・聖ニコライ永眠百年祭」企画

「渡来百五十周年記念祭」は、二〇一一年七月に函館にて開催する予定でしたが、残念ながら、東日本大震災発生に伴い中止としました。

「永眠百年祭」は、二〇二二年二月十八・十九日(土・日)に、キリル総主教聖下をはじめとしたロシア正教会代表团を招聘して東京復活大聖堂教会を主会場として開催します。詳細は、十一月に各教会宛通知の予定です。聖堂での祈禱も申込み制となりますので、予めご了承下さい。

## 永眠百年祭のあらまし

二月十八日(土)

・谷中霊園聖ニコライ墓前感謝祈禱

・前晩禱

二月十九日(日)

・聖体礼儀(総主教聖下司禱予定)

・午餐会(会場:都内ホテル。会費制)





### セラフイム主教座下メッセージ・閉会訓示

セラフイム主教座下は、次のように閉会訓示を述べ公会本会議を結ばれました。

「東日本大震災は大きな試練だが、教会は地域にあって地の塩、世の光とならねばならない。……関東大震災後の東京復活大聖堂修復成聖式に際し、高らかに歌い挙げられた復活のトロパリは、聖堂の修復のみならず日本正教会の復活を象徴するものだった。我々も教会建物の修復復旧に取り組む時、ハリストスにある『教会生活』を取り戻すことが中心目的であることを忘れてはならない（以上、大意）。

復活大聖堂で聖人の小感謝祈を献じ、本年度の公会を結びました。（東日本大震災関連事項については、本誌2・3ページを参照下さい。）

### 教役者人事

#### 新任

・ルカ田畑隆平副輔祭（33歳）神学校七月卒業  
神戸正教会付伝教者（大阪および京都教会庶務補佐を含む）。

・クリメント北原史門副輔祭（30歳）神学校七月卒業、東京復活大聖堂教会付伝教者（教団および東京教区庶務補佐、北関東地域奉事含む）。

#### 転任

・司祭パウエル及川信師（51歳）京都正教会管轄司祭、九州各教会（人吉、鹿児島、熊本、福岡）兼務。

京都への転居は、二〇一二年三月頃の見込み。公会発表人事異動は八月中旬完了が義務付けられています。管轄区域内の居住地変更であることから、認められました。京都教会代表役員の変更は、八月に行います。

### 兼務教会（臨時管轄区域）の変更

・司祭イオアン小野貞治（49歳）京都正教会兼務の任を解く。

及川師京都転居まで、同師の指示のもと適宜京都教会奉事を補助します。

・司祭クリゴリイ水野宏師（48歳）横浜正教会管轄、手賀兼務とし、東京復活大聖堂補助司祭の任を解く。（公会後、発令人事）

### 役職交代

・諸規則検討委員会委員長  
長司祭ロマン大川満師（70歳）から、司祭コンスタンティン榎田尚師（50歳）に交代。



# 十字架の福音

司祭 ゲオルギイ 松島雄一

十字架崇拝祭（九月二七日）にはイオアン福音書から、ハリストスが十字架にはりつけにされ、やがて息を引き取ってゆくさまが読まれます。私たちは、私たちの罪の赦しのため、私たちにいのちを与えるため、私たちによみがえりへの道を開くために、ハリストスが、（私たちではありません）、「十字架で苦しみを受けたことを記憶します。十字架は花で美しく飾られ、私たちは感謝と喜びの礼拝を献げます。

また十字架崇拝祭後の最初の主日の福音のテーマも十字架です。しかし今度は自分の十字架です。ハリストスの十字架によってもたらされた、私たちの真のいのちへのよみがえりへの道が、私たちのうちに、私たちの日々の生活のうちに、私たちの人生にどのように目に見えるものとされていくのか、すなわちハリストスの十字架の愛に、私たちの側が自分の十字架をとってどのように応えてゆくべきかが、教えられます。

どのようにでしょうか…。十字架を胸に架け、十字架のハリストスを思い起こし、いつも恭しく十字架を切つていけば、幸運が舞い込むのでしょうか。健康でつつがない生活が保障されるのでしょうか。恋が成就し、めでたく結婚できるのでしょうか。「しあわせ」になれるのでしょうか…。

そう考えているなら、その福音は私たちをほり倒します。ハリストスご自身のお言葉です。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら…」。ハリストスにみちびかれてよみがえりのいのちへの道を行んでゆきたいなら、ということですから。ならば…、

「自分を捨て」なさい。これを自分の中の不潔な欲望や、やっかいな情念を捨てて…、と理解するだけでは不十分です。自己中心的な生き方を捨てて…、でもまだ、このお命じの、いささかの曖昧さもない刃のような鋭さを伝えきれません。

自分のために生きることと止めなさい、そうおっしゃっているのです。ハリストスは「いのち」に至りたいなら、自分に対して死になさい、そして「自分の十字架を背負って、わたしについてきなさい」…、十字架に自らを献げたご自身と共に、神に自らを献げきる生き方、自分を自分のものではなく神のものとして生きる生き方を歩み始めなさい、そう命じているのです。

「自己実現」を人生の目的とし、自分の思いや感情、自分の願いや夢に忠実に生きることと、「人間的」としてはやす文化にとっぴり浸かっている私たちには、このイエスの言葉は実に非人間的に感じられます。事実、キリスト教はこのよきな言葉を振りかざして人間性を抑圧してきた、

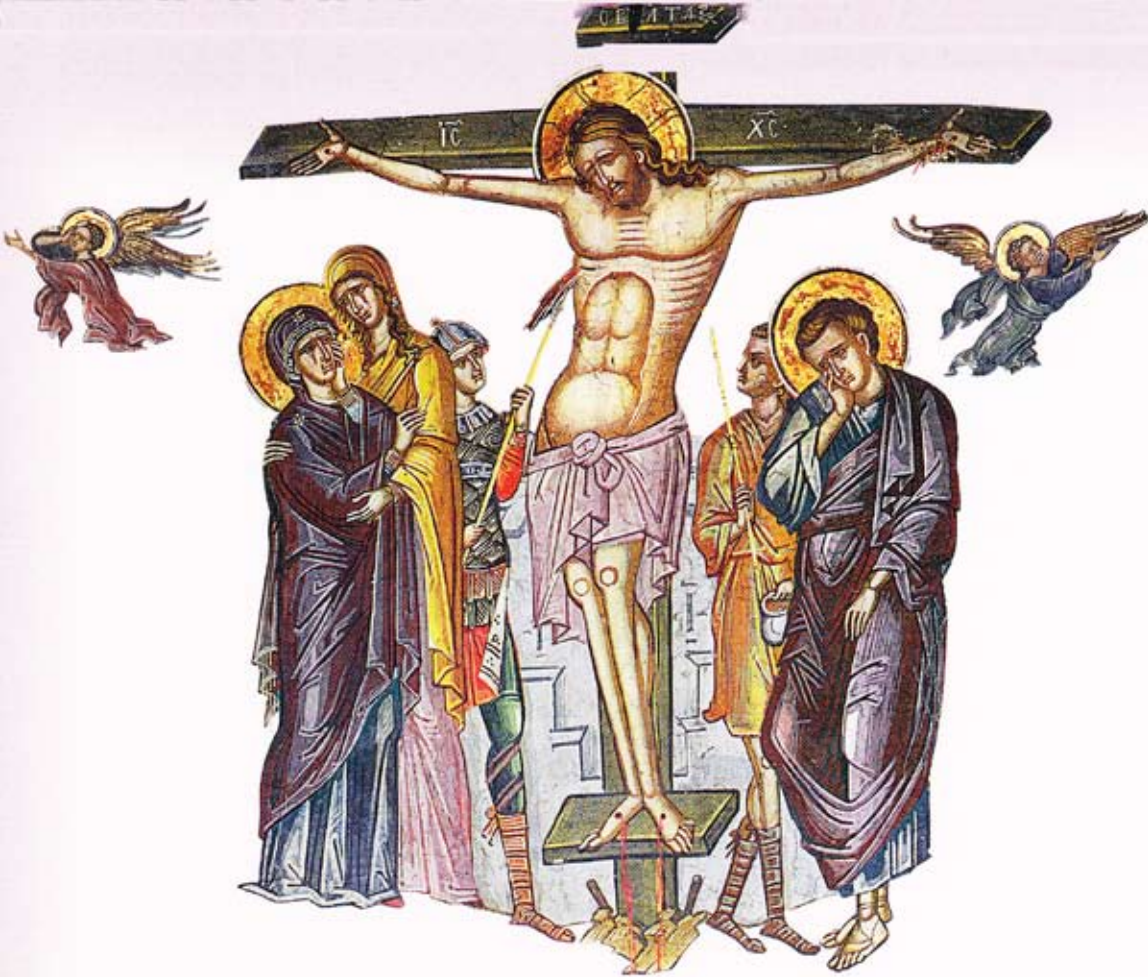
踏みこじってきたのだ、キリスト教はマゾヒスティックな「奴隷の宗教」だと、多くの思想家や哲学者が勝ち誇ったようにあげています。まさに、聖使徒パウエルがいうように「十字架のことは、滅びゆく者には愚か」なものです。この世の人々の「賢さ」からは、私たちクリスチャンの十字架を背負う生き方は愚かな世迷いごと過ぎません。

しかしハリストスは、そのようなあげけりを用意していたかのように、あなたがもし滅びたくなければ、大好きな「自分」を失いたくないなら、「自分を捨て」「自分の十字架を背負う」ほか道はないと、きっぱり断言します。これは、自己実現したいなら自己実現を求めな、という逆説です。福音はこう続きます。

「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うだろう。人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、何の得にならうか」。

ハリストスはとうとう「損だ」の「得だ」のままで言つて、私たちを十字架の逆説へと呼びかけます。かたくなな私たちへの、「わかってもらいたい」「救い出してやりたい」という愛が、平俗に流れることも厭わず「わかることば」を選んだのです。

しかし、この呼びかけがほんとうに私たちの



「得」のためであることの保証がどこにあるでしょう。

教会です。傷だらけで血まみれの十字架のハリ  
ストスが、それでも神の光栄を秘めていたように、  
私たちの人間的な弱さで無惨に汚されていても、  
なお依然として「ハリストスのからだ」、「聖徒の

交わり」として伝えられ続けている教会です。そ  
の教会を目に見えるものとしてこの世に示す聖体  
礼儀です。

そこにはハリストスのため、福音を生きたため  
に、自分を捨て、自分の十字架を背負った聖人た  
ちが無数に集っています。聖人たちがばかりではな

く弱く罪深い私たち、自らの手  
柄でなく神の無償の恵みによっ  
て「聖徒」とされた私たち信徒  
も、希望を捨てず、何度倒れて  
もそのつど主に手をさしのべ、  
主ハリストスに引き起こされ、  
そこに踏みとどまって、聖人た  
ちとともに「心を一つにし、口  
を一つにして」礼拝の声を上げ  
ています。迫害の時代、進んで  
殉教の死を受け入れた致命者た  
ち、生涯を祈りと齋の生活に捧  
げた克肖者たち、貧しい者、弱  
い者のために生涯を捧げた廉施  
者たち…、そして今も、人生の  
試験を、その苦しみを神さまに  
与えられた課題として進んで引  
き受けることで、致命者たちに  
続こうとする全世界の信仰の仲  
間たち、彼らの、そして私たち  
の「喜び」が…、自分を捨てて十  
字架を負って主に従うことこそ  
がまことの「得」であることを、  
保証しているのです。

## 新刊書紹介

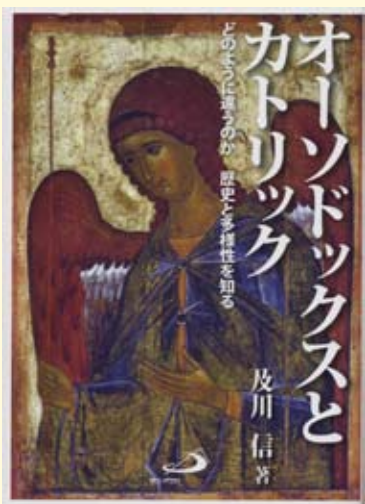
正教会とカトリックが違うということは  
知っていることだと思えます。では実際何  
がどう違うのかと聞かれたら皆さんどれだ  
け答えることが出来るでしょうか。

そうした疑問に分かりやすく答えてくれ  
るのが、及川信神父著「オーソドックスと  
カトリック」です。十字架の表徴（しるし）  
からフィリオクエ問題など教義がどのよう  
に違うのかが分かりやすく説明されてお  
り、正教会を知る意味から是非読んで頂  
きたい一冊です。

（サンパウロ1300円＋税）

一般書店でも手に入りますが、管轄司祭  
にご相談いただくこともできます。

（司祭イサイヤ酒井記）



## フィンランド

## 国際聖歌学会に参加して

マリア松島純子

六月六日から一週間、フィンランド東部のヨ  
 エンスー市で開かれた正教会聖歌の国際学会に  
 出席しました。ISOCM(正教会礼拝音楽国際協  
 会)の主催によるもので、フィンランド正教会、  
 東フィンランド大学、ヨエンスー市などが全面  
 的にバックアップしています。この学会につい  
 ては、二〇〇五年の発足当初から関心を持って  
 いましたが、なかなか参加の機会がありません  
 でした。今回、過去の学会の紀要について問い  
 合わせたと、事務局のマリア・タカラさん  
 から親切なご案内を頂き、参加を決意しました。  
 ほとんどの参加者が正教徒なこともあり、フィ  
 ンランド正教会の協力もあって、終始暖かい雰  
 囲気の学会でした。多くの国の人々と交流し、  
 ともに祈り、ともに歌った一週間でした。

## ISOCM(正教会礼拝音楽国際協会)と

## 第四回国際学会について

ISOCMは、正教会内外の礼拝音楽の研究者、  
 作曲家、聖歌者、学生などが経験や楽譜資料を  
 分かち合い、また世界各地で開かれる学会の情  
 報提供などを目的に設立されました。学会は  
 二〇〇五年から隔年で開催され、今回は第四回、  
 ギリシア、ロシア、ブルガリア、ルーマニア、  
 セルビア、グルジア、イギリス、フランスなど  
 ヨーロッパを中心に二〇カ国からの五〇名が参

加しました。総合テーマは「正教会聖歌における  
 一致と多様性、その理論と実践」で、さまざま  
 側面から正教の一致と多様性が検証されました。  
 内容は、ビザンティンやロシアの古写本の発掘調  
 査による資料の紹介、ビザンティンのアンティ  
 フォン唱法における即興性、カルパティアの会衆  
 唱について、アトスの修道院聖歌、至聖三者修道  
 院の聖歌の伝統——掌院マトフェイ(モルミル)  
 の功績、古儀式派の聖歌、一八世紀のビザンティ  
 ンの記譜法、ローマ・カトリック教会の東方典礼  
 研究所の礼拝、セルビア正教会聖歌の分析、グル  
 ジア聖歌の諸伝統についてなど多岐にわたって  
 しました。

多くは大学の研究者、学生、博物館の学芸員な  
 どによる学術的な研究発表ですが、聖歌の作曲家、  
 聖歌者現場サイドからの実践面での紹介もありま  
 した。ギリシアのビザンティン聖歌とグルジア正  
 教会の聖歌のコンサート、特別講習としてグルジ  
 ア聖歌の体験講座があり、独特のハーモニーの三  
 部合唱を楽しみました。

## 一致と多様性

一日の終わりにはフィンランド正教会、ヨエ  
 スー市、カレリア文化センターなど主催のパー  
 ティがありました。フィンランド人の大半はルー  
 テル派ですが、正教もそれにつぐ国教として国の

保護を受けており、街ぐるみの応援がありました。  
 音楽家の集まりだけあって次々と聖歌や民謡が歌  
 われました。ヨエンスー市庁舎でのパーティで  
 は、学会会長のイワン神父が立ち上がり「私たち  
 正教会では、一年で最も喜ばしい季節、復活祭期  
 が終わったところです。復活祭の喜び、主イイス  
 スが死んで復活し、死をもって死を滅ぼしたこと  
 は、各国のことは、各国の音楽で歌われます」と  
 紹介し、ギリシアのビザンティン・チャントから  
 始まってグルジア、ロシア、ロシアの旧儀式派の  
 伝統、フィンランド、セルビア、ルーマニア、ア  
 メリカ・・・、さまざまな国と地域からの参加者  
 が、自らの伝統のパスハのトロパリを歌い、知っ  
 ているものは互いに唱和しました。私も日本語で  
 歌いました。言語や音楽は違っても、同じ信仰を  
 持つ仲間、同じ復活の喜びを体験し、大きな一  
 つの教会の中とともに歌っていることを実感し  
 ました。

リスの河畔





1



2



3



4

## フィンランドの聖歌

フィンランド人の大半はプロテスタントのルーテル派で、正教は六万人、一%ほどです。フィンランドではキリスト教は、一二世紀頃、ローマ・カトリックと正教の両方がスウェーデンとノヴゴロド公国から伝えられました。政治的には、常に強国スウェーデンとロシアの狭間にあり、たえず国境が揺れ動いており、本格的な正教の伝道が行われたのは一八世紀、東フィンランドのカレリヤ地方がロシア領になってからのことで、学会が行われたヨエンスーもロシア皇帝ニコライ一世によって開かれた街です。ヨエンスー教区の聖堂、奇蹟者聖ニコライ教会は日本にもよく見られるや北ロシアの伝統を受け継いでいる木造教会です。金と白を基調にし

たイコノスタス、アナロイ覆いなど、内装は日本でもよく見られる一九世紀ペテルブルグの様式でした。聖歌も同様で、いわゆる宮廷チャント（パフメテフのオビホード）が基調で、日本とよく似たメロディがフィンランド語で歌われています。しかし北欧のフィンランドにはもともと優れた合唱の伝統があり、ロシアのものとはひと味違った柔らかく深いハーモニーの合唱聖歌も歌われています。

フィンランド正教会はロシア革命後、ロシア教会から自治独立し、一九二三年からコンスタンティノープル総主教庁に所属しています。革命後、ワラーム修道院が閉鎖されてからは多くの修道士が亡命し、ニューワラーム修道院を建て、フィンランド正教の霊的中心地となっています。

## イコン画家、ペトル佐々木

フィンランドで多くの人から「ペトル佐々木を知っているか」と訊ねられました。ペトル佐々木は秋田大館出身で、フィンランド・イコンの父として尊敬され、一九九九年ガンのために永眠しましたが、その謙虚な人柄によって今も敬愛されています。日本ではあまり知られていませんが、フィンランドに本格的なビザンティン・イコンを導入し、多くの修道院や教会のイコン、フレスコを手がけ、多くの弟子を育てました。ペトル佐々木については項を改めてご紹介したいと思います。

ヨエンスーを流れるピエ



写真1. 聖ニコライ教会（ヨエンスー）

写真2. 聖ニコライ教会内部

写真3. 学会、東フィンランド大学聖歌隊

写真4. ペトル佐々木のイコン、リントウラン修道院

## 九州 人吉生神女庇護聖堂

### 聖障（イコノスタス）整備すすむ

本年一月から新たな聖障木組み工事に取っかかり、すでに仮のパネルイコンと新たに製作された素晴らしい聖像が安置されています。聖像は岡山の白石孝子先生の作、しつとりと心の安まる救世主ハリストスと聖母子像の大聖像が天門の両翼にあります。いま白石先生が各聖像を製作すると共に、聖障・聖像献金を募集中。川辺川の清流で洗礼を受けられる、空気の綺麗で食べ物の美味な温泉地人吉にいらっしやり、いっしょに祈りませんか。

（司祭パウエル及川記）



## 神戸教会

### 隣地の土地・家屋を購入

神戸ハリストス正教会は、この度、聖堂西側の隣りに位置する土地約二八坪及び平成八年二月建設の家屋一棟（木造三階建て、約三六坪）を取得いたしました。このために二月二〇日に臨時信徒総会を開催し、全員一致で購入することに可決、聖堂建設積立金を取り崩すことも議決され、三月には全支払いが完了しました。

売り出し物件で契約は早い者勝ちでした。申し込みながらも一歩遅かったら他者の手にわたるところでした。神様の摂理に感謝です。

リノベーションといわれる方法でリフォームされた家屋は新品同様にきれいです。さらに、隣地を得たということは土地が広がったわけですから、将来、新聖堂建設への夢もふくらみます。

（司祭ダヴィド水口記）



## 神戸教会 田畑伝教者着任

### ご挨拶

去る七月七日に東京正教神学院を卒業し、この度、神戸教会付伝教者として派遣されました副輔祭・ルカ田畑隆平と申します。ダヴィド水口神父様のご指導の下、神戸教会を中心に教区内の教会のお手伝いをさせていただきます。

私は、四年前に正教徒になり、その翌年には神学校に入學しました（現在三三歳です）。神学校を卒業したとは言え、正教徒として過ごした期間も短く、また、人生経験も乏しく、本来ならば信者の皆様に何かをお教え出来るような者ではありません。このような私にいま出来ることは、信仰の喜びを皆様と分かち合い、共に生きていくことです。神学校で、「教会は赦しの社会である」と教わりました。神様の愛の眼差しの下、赦しの社会の実現の為に働きたいと思えます。



## 西日本主教教区冬季セミナー 「正教会の聖堂」

二月一日、例年大阪教会を会場としている「冬季セミナー」は、昨年新聖堂「神現聖堂」を成聖した名古屋教会で「正教会の聖堂」をテーマに開催されました。参加者は地元名古屋、半田をはじめ豊橋、大阪、東京、人吉などから五二名、うち一般への呼びかけに応じて参加された方も一〇名ほどありました。

十一時からの午前の部は、豊橋教会のイサイヤ酒井以明神父による「聖堂の歴史とその建築の可能性」と題した講話。初代教会から現代までの聖堂建築の歴史を概観する中で、正教会聖堂の基本的なあり方を説明されました。写真1

昼食を挟んで午後の部は、名古屋教会「神現聖堂」の設計にも、アドバイザーとして参加した、ロシア建築史研究家で小田原教会の信徒でもあるミハイル池田雅史兄による「東京復活大聖堂と十九世紀ロシアの建築」と題した講演。ロシア聖堂建築のスタイルの変遷また、東京復活大聖堂（ニコライ堂）の設計者ミハイル・シシユルポフをはじめ、近代ロシア建築史の中で特筆すべき建築家たちの

生涯やエピソードを交えつつ、ニコライ堂の建築様式がロシア正教聖堂建築史にどのように位置づけられるかを、お話しくださいました。写真2

講演後の質疑応答では「ニコライ堂のどこがビザンティン様式といえるのか」など、活発な質問が出され、二時間以上にわたる講演でしたが、参加者が強い興味を持って聴講したことが伺われました。

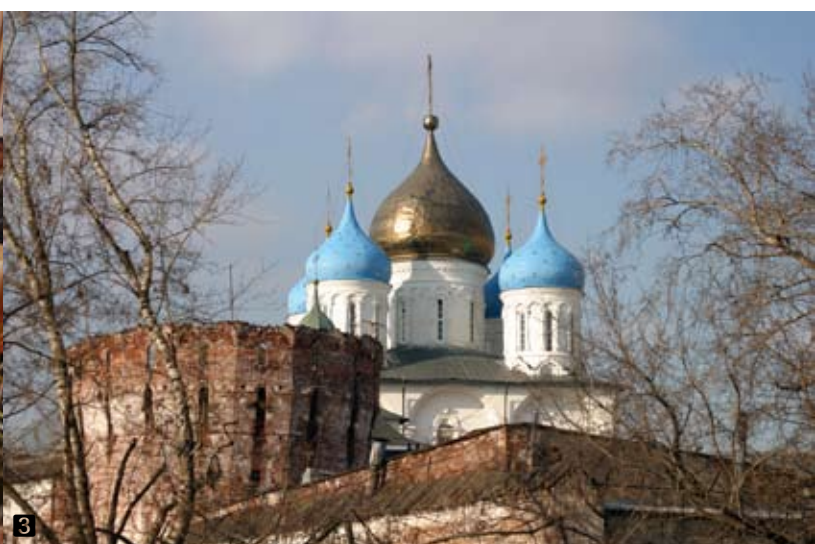
またこの冬季セミナーに合わせ、二月六日から十二日にかけて信徒会館で名古屋教会主催・写真展「ロシアの聖堂」が行われました。写真3と4

これらの写真は中部大学講師の物理学者イワノフ・ユーリー兄（写真奥の男性）が長年にわたって撮影を続けてきたロシア正教の聖堂写真を年代を追って二十四枚集めたものです。ユーリー兄の全面的なご協力があったて実現いたしました。

（司祭ゲオルギイ松島記）



1



3



2



4

## 京都 「人の生き方」

去る一月一〇日(月・祝)に、定例「学びの会」が京都教会において開催されました。参加者は一五名。徳島ハリストス正教会の長司祭グリゴリイ小川公神父様が「人の生き方」と題してご教話くださいました。

小川神父様は、「人が生きるためには、神の力、神の愛が必要である。すぐに過ちを犯す私たちでも、神を信じることによって人を愛することができるようになる。」とお教えくださいました。また大斎準備週間の主日の福音をテキストとして配布され、「斎の心の大切さ」も説かれました。

他にも、明治三〇年に発行された「信仰と基督教徒(ハリストティアニン)の生涯」という小冊子をコピーして配布され、そこからいつくか抜粋して信仰の大切さをお話しなさいました。

さらに、「聖事経」から、子供が生まれた後に行われる祈祷を紹介され、「生命の尊さ」を強調されました。

神父様は、ご教話の後、参加者一人一人に、いろいろな感想、質問などをお尋ねになり、活発な意見交換の場となりました。(司祭タヴィド水口記)



## 神戸 「神父になったサムライ」

坂本龍馬のいとこ

三月二二日春分の日、神戸教会で、第五回教区定例学びの会が開始されました。今回の講師は人吉教会を拠点に九州の教会を管轄されているパウエル及川信神父です。テーマは「神父になったサムライ——坂本龍馬のいとこ——」と題して、日本正教会の最初の受洗者の一人、かつ最初の邦人司祭であるパウエル澤邊琢磨師の生涯。参加者は近隣教会を中心に十八名でした。



パウエル神父は、江戸出奔の不名誉な理由ではありましたが、結果的に師を、東北地方の流浪を経て函館での聖ニコライとの出会いに導いた「時計事件」をはじめ、いくつかの興味深いエピソードを交え、その生涯をご紹介くださいました。お話しはしかし、ただエピソードをちりばめるのではなく、「求める人」澤邊琢磨師が求めて故郷を出てゆき、ハリストスの福音宣教のための地を求めて同じように故国を遠く離れて来日した「求める人」聖ニコライと出会った、「求める人」どうしの出会の物語をくつきりと浮かび上がらせ、強い印象を与えるものでした。

講話後は、学びの会のあと予定されていた主教区司祭会議に出席のイオアン小野神父から、大震災の正教関係の被害状況の説明があり、罹災者のみなさんに一日も早く復興の日がおとづれますよう祈りつつ、閉会いたしました。

(司祭ゲオルギイ松島記)

# 教区定例 学びの会



## 福岡 「信心と信念と信仰」

私たちは何をどのように信じるのか。

四月二十九日、九州北部・福岡聖ニコライ伝道所において、復活大祭聖体礼儀後、約二時間にわたって教区学びの会を開催。ダヴィド水口神父様（大阪）をお迎えして、講話「信心と信念と信仰」私たちは何をどのように信じるのか」をお聴きし、信心と信念、信仰の違いについて熱心な質疑応答が行われました。参加者一八人でした。

（司祭パウエル及川記）

## 大阪 「落ち込んだとき」

正教徒ならどう対処するか

五月二十八日（土）に、教区「学びの会」が大阪教会を会場に開催され、名古屋教会

のゲオルギイ松島神父様より「落ち込んだとき」正教徒ならどう対処するか」と題して教話が行われました。参加者一九名。

松島神父様は、アメリカのギリシャ正教会のアントニー・コニアリス神父の「Finding God in time of Sorrow and Despair」という本から叡智と慰めに満ちた言葉を抄訳された資料をお作りになり、落ち込みは誰にでもあること、落ち込んだとき無理してがんばろうとしないこと、必ずハリストスが助けてくれるという希望をもつこと、などをわかりやすく、時には優しく、時には熱っぽく、教えてくれました。

参加された方々は皆、「自分のことを言われているようだ」と思いながら、大きな慰めと希望をいただくことができました。

（司祭ダヴィド水口記）



## 宣教献金芳名録 2010年12月～2011年5月 (6月以降の献金芳名録は次号に掲載します)

|                |        |                   |        |       |        |
|----------------|--------|-------------------|--------|-------|--------|
| 安部正英           | 5,000  | 匿名                | 1,000  | 松島雄一  | 10,000 |
| 手塚敏雄           | 2,000  | Apolinaria polina | 1,000  | 藤田敏夫  | 2,000  |
| 山岡照明           | 10,000 | 大山奈津子             | 1,000  | 川井清隆  | 1,000  |
| 萱野重義           | 3,000  | 半田幸子              | 2,000  | 松本 望  | 10,000 |
| 小野ミヨ           | 10,000 | 大岩時夫              | 2,000  | 今堀英子  | 1,000  |
| 飯田基子           | 3,000  | 南雲幸美              | 1,000  | 神田憲治  | 1,000  |
| 深井智恵子          | 5,000  | 伊藤慶郎              | 1,000  | 守谷恭亮  | 10,000 |
| 松島良平           | 5,000  | 藤田敏夫              | 1,000  | 小杉昌種  | 10,000 |
| ブルジャンスカヤ・オクサーナ | 10,000 | 野畑勇夫              | 3,000  | 木岡牧江  | 5,000  |
| 匿名             | 10,000 | 高橋幸江              | 1,000  | 萱野重義  | 3,000  |
| 神田比呂志          | 10,000 | 石垣安弘              | 1,000  | 飯田基子  | 3,000  |
| 橋本京子           | 5,000  | 伊藤英一              | 5,000  | 藤岡直美  | 2,000  |
| 川口よしの          | 5,000  | 山本信               | 3,000  | 北川俊太郎 | 1,000  |
| 及川 信           | 5,000  | 鈴木尚子              | 5,000  | 浅井敏江  | 1,000  |
| 木岡牧江           | 3,000  | 坂本エレ二             | 5,000  | 平尾 薫  | 1,000  |
| 藤岡直美           | 2,000  | 藤中洋一              | 5,000  | 宮路寿子  | 1,000  |
| 松本望            | 10,000 | 日比 正              | 30,000 | 水口優明  | 10,000 |

(単位：円 敬称略 受付順)

## 行事のご案内

秋季セミナー 聖ニコライ渡来 150 周年記念

### 「亜使徒たちの伝道」

10月10日(月・祝) 10:45～15:00

大阪正教会 信徒会館

◆二人の聖インノケンティ―聖ニコライが敬愛した聖人たち  
京都ハリストス正教会(九州管轄) 司祭 パウエル及川信

◆宣教師ニコライの西国巡回  
横浜国立大学名誉教授 長縄光男

参加費 1000円(昼食代含)

申し込みは、9月末日までに管轄司祭まで



恒例の冬季セミナーを教団行事(聖ニコライ永眠100年祭)との重複を避けるために、今年は「秋季セミナー」としました。

### 教区定例学びの会

- ・11月3日(木・祝) 神戸教会、イサイヤ酒井以明神父講話
- ・12月(日程未定) 東海地区教会、ダヴィド水口優明神父講話
- ・来年4月30日(月・祝) 福岡会堂、ゲオルギイ松島雄一神父講話

### 亜使徒聖ニコライ永眠百年祭(東京大主教教区企画・教団行事)

2月18日(土) 谷中墓地にて聖ニコライ墓前にて感謝祈祷

東京復活大聖堂にて亜使徒聖ニコライ祭徹夜祷

2月19日(日) 東京復活大聖堂にて亜使徒聖ニコライ祭聖体礼儀

午餐会(都内ホテルを会場に)

ロシア正教会モスクワ総主教キリール聖下ご一行を招いて祝います。

来賓安全対策のため行事参加はすべて予約制となり、11月頃教団から正式に参加要項が出される予定

### 表紙の話

◇今年、二〇一一年は、亜使徒聖ニコライが日本に渡来して一五〇年目を迎えた記念の年である。◇聖ニコライと出会った人々は、至聖三者の真の神を信じる信仰に目覚めることができた。「聖なる神(しん)」に選ばれたる笛の音色を聞いた人々は、「正教」という名のメロディーに感動したのである。◇私たちが、今、ここにいるのも、聖ニコライが一五〇年前に函館の地に足を一歩踏み入れたところから始まっており、聖ニコライをとおして正教を知り、それを次世代に伝えた人々の「おかげ」である。◇今号の表紙は、聖ニコライを、主に西日本に縁のある人々で取り込んだコロージュ風の写真である。◇1. 聖アンドロニク主教とセルギイ鈴木九八神父ら、2. 京都生神女福音聖堂成聖式、3. 京都女学校校長高橋五子、4. パウエル中井木菟麿師と女性教師ら(明治34年)、5. 京都女学校、6. 大阪公会(明治39年)、7. セルゲイ・テイホミロフ主教、ピーメン薄井伝教者、アンドレイ柴山神父(明治43年)、8. マトフェイ影田神父ら(豊橋教会旧聖堂)。

◇これらの写真を見て思った。自分に手渡された信仰のバトンを次世代に渡していく努力を怠らないようにしたい、と。